

## 館長のひとりごと： 朝ドラ「ばけばけ」決定！に思う(2024.6.12)

朝ドラ「ばけばけ」決定の反響があまりに大きいので、さきほど記念館で記者会見をして、率直な喜びをお伝えしたところです。しかも記念館の企画展「小泉セツ、ラフカディオ・ハーンの妻として生きて」の準備中に飛び込んだサプライズでした。

小泉家にとっては、1983年制作の山田太一さんの「日本の面影」以来、四十数年ぶりにテレビドラマで描かれるセツとハーンです。心より嬉しく光栄に思います。

私はセツを直接知りませんが、セツが愛用した姿見が二子玉川の家があり、フレームの右半分だけが色褪せているのを子ども心に不思議に思って親に訊いてみると、「いつもセツが濡れてぬぐいを右側に掛けていたから」とのこと。小学生のころ、その姿見にサッカーボールをうっかりあてて、鏡を割ってしまったのです。その時の「しまった！感」は今も忘れられません。

ハーン同様、セツもカタストロフィを力にかえて、オープンマインドで人生を送った前向きな人だと思います。小さい頃、フランス人ワレットに虫眼鏡をプレゼントされ西洋人への心が開かれます。機織りで家計を支える赤貧の暮らしの中で、ハーンと巡りあい、またハーンの急逝の際には、マクドナルドやビスランドやチェンバレンなど、ハーンの友人たちが助けてくれて、その後、セツは趣味の謡、鼓、お茶や芝居見学を楽しむ人生を送れました。ハーンも生涯をかけて「おばけ」を探求しましたが、セツも「おばけ物語の創作」に協力し、人生で何度も思いがけない変化をとげて、「ばけ」ていきます。

そんなふたりの前向きな生き様が、視聴者のみなさまに伝わり、日本全体がもっと元気になれるといいな！と、期待を寄せています。そして、松江やハーンとセツゆかりの地の、賑わう未来の姿を想像して、胸をときめかせています。みなさまの応援を、今後ともよろしく願います。

